

（西暦）2023 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること）

自閉スペクトラム症のある児童・青年の性行動に対する
作業療法士の支援の視点と課題

学位の種類：修士（作業療法学）

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 22896707

氏 名： 兵頭 洋子

（指導教員名：伊藤 祐子）

注：1 ページあたり 1,000 字程度（英語の場合 300 ワード程度）で、本様式 1～2 ページ（A4 版）程度とする。

はじめに

自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorders;以下，ASD）のある方の思春期青年期における性的な問題行動は稀なことではない。この性的な問題行動は健常な発達上の性的変化と ASD の特性が相互に関連して生じると考えられ，ASD の特性を踏まえた介入が望まれる。

目的

本研究では，作業療法士（Occupational Therapist;以下，OT）の視点から ASD のある方への性に関する支援や課題を明らかにし，有益な支援のあり方を考えることを目的とした。

方法

研究参加者の選考基準を，障害児通所支援，特別支援教育，医療機関のいずれかの業務に従事したことがあり，中学生から高校生の知的能力障害の程度が軽度もしくはない ASD のある方の担当経験があること，ASD のある方を担当した経験が 5 年以上とし，条件を満たした OT14 名に個別の半構造化面接を実施した。面接は“性の問題”を定義した上でを行い，中学生や高校生の知的能力障害の程度が軽度からない ASD のある方の“性の問題”への支援経験，OT が“性の問題”を含めた性に関する支援を行うことへの考え，支援の課題について聴き取った。面接により得られたデータは，逐語録を作成した上で KJ 法により構造化した。

結果

“性の問題”以外の性に関する事柄についても，幼児期から高校卒業後の青年期以降という広い期間にわたり，OT が関与する可能性があることが明らかになった。KJ 法を用いた構造化では，9 つの島が生成『ASD のある方の性行動に対する OT の認識』という図解が得られた。図解からは，次のような OT の認識の構造が浮かび上がった。ASD のある方の性の問題は，【障害特性と環境の相互作用】に起因し，その複雑な問題構造ゆえに【OT の葛藤と不全感】が生じている。その状況下でも【トラブル回避への思い】が OT にはある。性に関するトラブルを回避するためには【性に関する事柄の本質への留意】を前提に【OT 独自の専門性】を発揮しつつ，【必要不可欠な多職種連携】によりカバーすること，また【長期的な視点】をもつことが必要と OT は捉えている。性に関する支援は，本人や支援者の【向き合うための準備】により支えられており，ASD のある方への【ポテンシャルの尊重】と相互に関係している。この【ポテンシャルの尊重】は

【障害特性と環境の相互作用】により引き起こされる問題行動の抑止力に繋がると OT は捉えている。

考察

ASD の障害特性と OT が関与しにくい環境因子により引き起こされる性の問題は、支援するにもリスクを孕んでおり、ASD のある方の支援経験がある OT であっても容易ではないと考える。また、そのことが OT の葛藤に繋がっていると考える。性に関する支援を実施するためには、本人や家族、OT が知識や技術を獲得することはもちろん必要であるが、それ以前に本人や家族、OT を含めた支援者が支援の必要性を感じることで、更に ASD のある方の発達を見据えた連続性のある支援体制や多職種連携が必要であることが示唆された。